

キャッツー役もやるし、『ウエストサイド物語』のアニタもやると決めました」
 そんなとき、大阪でキャッツーに出演している鎌田に浅利氏から電話が入る。「明日、東京に戻って来い。『コーラスライン』のマチネでシーラの役をやらせて。シーラ役の前田美波里さんが骨折してしまって」

翌朝一番で帰京、練習をして午後には舞台に立った。

32歳のとき、振付家への思いを浅利氏に伝え、そのために踊りのルーツを勉強したので休団したい旨を伝えた。が、「四季の稽古場を見ろ。廊下をブロードウェイやロンドンの一流のスタツフが歩いている。世界のミュージカルの縮図がここにあるのだから、ここで学べるはずだ」と言われ「それは違う」と歯向かった。すると、それまで『オペラ座の怪人』に出ていたのが、いきなり『キャッツ』福岡公演に飛ばされる。『キャッツ』に出演しながらも、このままでもいいのか？と自問自答の日々。そして、もう私には時間がない！と決意し、公演の最中だったが「辞め

ます」と退団宣言。荷物をまとめていったん徳島に帰った。

以降、長崎ハウスステンボス・音楽座、わらび座、市民ミュージカルなどの振り付けの依頼を受け、振付家としてのポジションを確立。

ところが2004年、ブロードウェイに出かけたときに大きな衝撃を受ける。ブロードウェイの豪華キャストが出演するチャリティ公演を見て、ブロードウェイの演劇界全体がエイズ支援基金活動を大規模に展開していることを知る。「これからは日本の演劇界も社会貢献活動に立ち上がらなくては！娯楽としての演劇だけではなく、社会貢献にマイノリティな人たちの心を動かす演劇活動をやろう」

そして立ち上げたのがNPO法人『CARE-WAVE』だ。国内外の社会問題を提起し収益を寄付する舞台や、被災地の子ども達による『語り部ミュージカル』を上演するなど様々な演劇支援活動を行ってきた。

3年前から足首にリュウマチを抱えている。今の課題は、NPOの資金集め。「私の夢は、世界の演劇界が国を越え手を取り合って、支援活動を行うこと

です。そして、舞台を通して世界に思いやりの波(CARE-WAVE)を広げていきたいと思っています」

還暦を迎え、ステージは変わっても、彼女の核を成す思いの熱さは変わらな

い。

(取材・文／北島由記子 写真／永井守)
 取材協力／ON THE WAY
 東京都世田谷区北沢2-23-11藤森ビル1F
 TEL 03 (6804) 0515

